

# 第7回教育委員会会議

令和8年6月9日  
午後3時30分  
本庁舎屋上会議室

案 件

議案第46号

大阪市教育DX人材育成計画の策定について

# 大阪市教育DX人材育成計画の策定に至った経過

## I 大阪市DX人材育成方針について

令和5年3月 大阪市DX戦略 策定

・サービス、都市・まち、行政の3つの視点からDXに取り組む方向性を示す。



令和5年4月 大阪市DX人材育成方針 策定

・大阪市DX戦略策定を受け、DX人材育成について基本的な考え方を示す。  
・対象を職員全員(※)とし、ICT担当部署だけではなく全部署が職務のやり方を変える意識を持たなければならない。

※教育委員会事務局の職員は対象とされているが、市長と教育委員会の役割分担があることから、学校園の教職員は対象外とされている。



令和7年7月 大阪市教育DX人材育成方針 策定

・学校園の教職員を対象とするDX人材育成について基本的な考え方を示す。

※学校園にデジタル技術を導入する際に現場の観点が必要になることから、学校園教育に携わる教育委員会事務局の職員も対象



令和8年7月 大阪市教育DX人材育成計画 策定予定

・育成方針に基づき計画的・段階的に具体的な研修体系の策定が必要

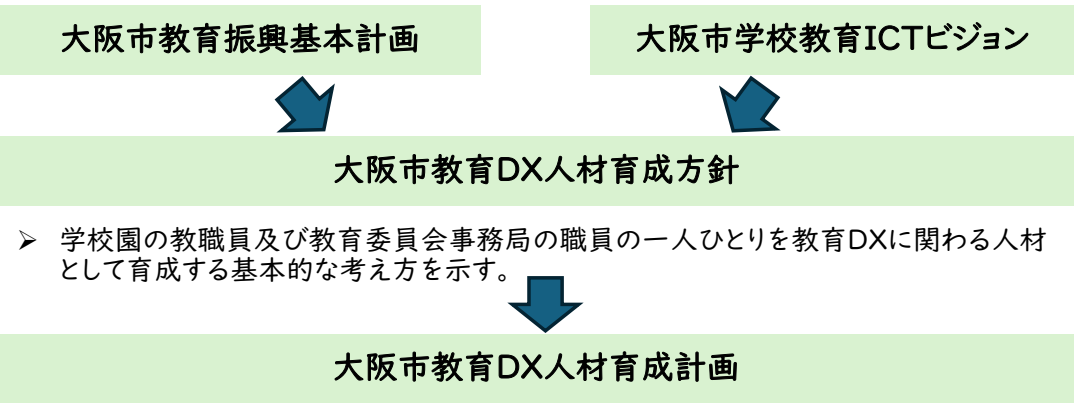
# 大阪市教育DX人材育成計画

## 1 策定の背景・目的

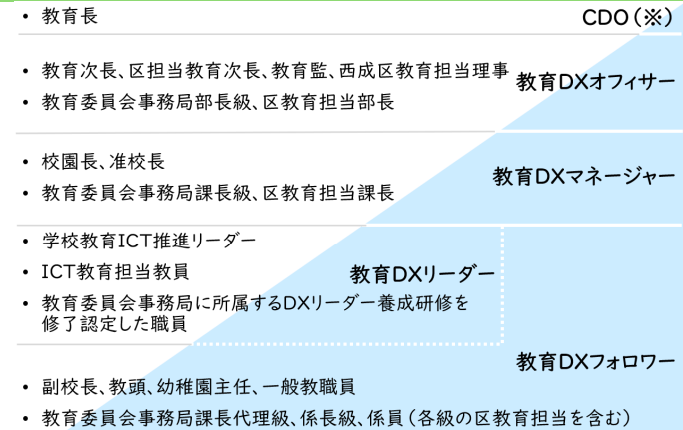
**■策定の背景**  
 本市では、教育DXの推進として、ICTの活用により、児童生徒の学力向上に資する教育方法はもとより、学校運営や教育行政に至るまで、より良い教育の在り方に向けた一体的変革として、教育におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでいる。これを実現し、支えるのは一人ひとりの学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員である。このため、これら全ての者を教育DXに関わる人材として育成するため、令和7年7月「大阪市教育DX人材育成方針」において、学校園の教職員及び教育委員会事務局職員を対象とした目指すべき人材像を示したところである。  
 しかし、教育DXの人材育成は、方針を示すだけではなく、必要なマインド・能力・知識を着実に身につけ、実践に繋げていくための育成プロセスの具体化が不可欠である。よって、大阪市教育DX人材育成方針で示された教育DX人材像や「Why—What—How」の学習ステップを、各階層の職員が、いつ、どのような研修を受講し身につけるかを体系的に整理した計画を策定する必要がある。

**■策定の目的**  
 全ての教職員が教育DXを自分事として捉え、必要なマインド・能力・知識を着実に身につけ、実践に繋げていくための計画的かつ段階的な人材育成の仕組みを構築し、大阪市教育DX人材育成計画として策定するものである。

## 2 計画の位置づけ



## 3 目指すべき教育DX人材像



- 教育DXサポーター**
  - 総合教育センター教育振興担当の指導主事
- 教育DXエキスパート**
  - 教育デジタル推進課の職員
  - システム所有課の職員

能力・知識	階層	DXオフィサー (局部長級)	DXマネージャー (校園長・課長級)	DXリーダー (ICT推進リーダー、ICT教育担当教員、DXリーダー)	DXフォロワー (教職員、一般職員)	DXサポーター (総合教育センター教育振興担当指導主事)	DXエキスパート (教育デジタル推進課等職員)
情勢判断及び政策決定力		◎	◎	○	○	○	○
マネジメント力		◎	◎	○	○	○	○
調整力		▲	◎	◎	○	○	◎
発想力、分析力		▲	○	◎	○	◎	○
デジタル技術・データの知識		▲	▲	◎	◎	◎	○
デジタル技術・データの活用力		▲	▲	◎	◎	◎	○
授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)		—	▲	◎	◎	◎	◎
情報セキュリティ等の知識		▲	◎	◎	◎	◎	◎
システム開発デザイン・プロジェクトマネジメント力		▲	▲	▲	▲	▲	◎

(※) CDO: Chief Digital Officer (チーフデジタルオフィサー) の略で、最高デジタル責任者のこと。DX戦略の中心的な役割を果たす。

# 4 人材育成計画

## 移行期

令和8年度～令和9年度

## 浸透期

令和10年度～

Why -なぜDX?-	What -どんなデータ・技術で?-	How -どのように、データ・技術を活用?-	Why -なぜDX?-	What -どんなデータ・技術で?-	How -どのように、データ・技術を活用?-
マインド	リテラシー	スキル	マインド	リテラシー	スキル
<p><b>【移行期のWhy】</b> 教育DXに関する考え方や方向性を知る。 学校教育ICTビジョン等の大阪市の方針や、学習者用端末の活用・校務改善が既に進んでいる学校の事例を紹介。 全教職員向け研修、管理職向け研修、新規採用者研修、移行期研修など、立場や役割に応じた内容の研修等で学習を進める。</p>	<p><b>【移行期のWhat】</b> 児童生徒の発達段階に応じたデジタルリテラシーを理解し、授業や校務におけるICTの活用を拡大する。 デジタルリテラシー教育及び前提となる情報モラル教育に関する資料、Google Classroomなどの基本的なツールや授業で活かせる学習用アプリの使い方などを習得するための資料やマニュアル等を充実し、学習を進める。</p>	<p><b>【移行期のHow】</b> 授業や校務におけるICT活用をさらに拡大する。 より実践的な学習用アプリや生成AIなどの使い方を紹介。また、「自律的・探究的な学び」の実践事例、ICTを安全に利用するためのセキュリティ対策等の資料やマニュアル等を充実し、学習を進める。</p>	<p><b>【浸透期のWhy・What】</b> 毎年の新規採用者や、現職教職員の振り返りがいつでもできるよう、これまで行ってきた研修や資料を整備し、方針等が更新された場合は、研修や資料も併せて更新する。</p> <p><b>【浸透期のHow】</b> 教育DXを具体的に実践・展開する。 デジタル学習基盤を前提とした「自律的・探究的な学び」の推進と、校務DXのより実践的な推進に必要なスキルを身につける資料を充実する。 授業・校務における具体的なICTツール活用方法、学習指導要領改訂を見据えた授業モデルを浸透させる。</p>		

# 4-1 移行期（令和8~9年度）の研修マップ

**How**  
データ・技術の活用方法

**What**  
DXで活用されるデータ・技術

**Why**  
DXの背景

教育DXフォロワー / 教育DXリーダー

教育DXマネージャー

CDO・教育DXオフィサー

**選** データ活用研修

**選** 生成AI活用研修

**選** ICT活用研修

**必** ICT教育担当教員研修

**必** 新任教員研修 (情報教育)   **必** 5年次教員研修 (授業づくり)   **必** 中堅教員研修 (実践)

**選** 情報モラル研修

**選** 校園長研修

**必** 情報セキュリティ研修 (全教職員向け)

**選** EBPM基礎研修

**選** 生成AI研修

**選** コミュニケーションツール操作研修

**選** ICT基礎知識研修

**必** 移行期研修① (ICT教育担当教員+ 校長推薦)   **必** (副校長・教頭)   管理職向け研修 (校園長・准校長)

**必** 新規採用者研修   **必** 移行期研修④ (~5年)   **必** 移行期研修③ (5~10年)   **必** 移行期研修② (10年~)

**必** 令和8年度全教職員向け研修

区長・局長向けDX研修

**必**

凡例   教員向けの研修   職員向けの研修   教員及び職員向けの研修   **必: 必修研修**   **選: 選択研修**

# 4-2 浸透期（令和10年度～）の研修マップ

	教育DXフォロワー / 教育DXリーダー	教育DXマネージャー	CDO・教育DXオフィサー		
How データ・技術の活用方法	令和10年度以降に、Howに関する研修を整備予定				
	選	データ活用研修(仮)			
	選	生成AI活用研修(仮)			
	選	ICT活用研修(仮)			
	必	ICT教育担当教員研修(仮)			
	必	新任教員研修	5年次教員研修	中堅教員研修	
	選	情報モラル研修(仮)	選	情報セキュリティ研修(情報セキュリティ責任者向け)	
		必(副校長・教頭)	管理職向け研修	(校園長・准校長)	
	必	情報セキュリティ研修(全教職員向け)			
	What DXで活用されるデータ・技術	令和10年度以降に、Whatに関する研修を整備予定			
選		EBPM基礎研修			
選		生成AI研修			
選		コミュニケーションツール操作研修			
選		ICT基礎知識研修			
Why DXの背景		必	新規採用者研修		
	選	令和8年度全教職員向け研修(未受講者又は再受講用)			
	必	区長・局長向けDX研修(仮)			
凡例	教員向けの研修	職員向けの研修	教員及び職員向けの研修	必:必修研修	選:選択研修

# 4-3 教育DXサポーター及びエキスパートの研修等マップ

**How**  
データ・技術の活用方法

**What**  
DXで活用されるデータ・技術

**Why**  
DXの背景

教育DXサポーター	教育DXエキスパート
他都市の先進的事例の視察	
教科等担当指導主事連絡・研究協議会	専門知識に関する書籍及び資料
学校園への訪問	選 J-LIS主催の研修
	選 プロジェクト計画の研修(外部主催)
	選 要件定義等の企画方法の研修(外部主催)
	選 ネットワーク・システム・機器・ソフト・ツールに関する知識の研修(外部主催)
必 情報セキュリティ研修(全教職員向け)	
選 その他DXで活用されるデータ技術に関する研修(今後予定)	
選 EBPM基礎研修	
選 生成AI研修	
選 コミュニケーションツール操作研修	
選 ICT基礎知識研修	
	学校園の視察
必 令和8年度全教職員向け研修	

凡例

- 職員向けの研修
- 教員及び職員向けの研修
- 研修以外
- 必: 必修研修
- 選: 選択研修

# 大阪市教育DX人材育成計画

令和8年7月 大阪市教育委員会

# 目次

---

- 1 はじめに
  - 1-1 策定の背景・目的
  - 1-2 計画の位置づけ
- 2 目指すべき教育DX人材像
  - 2-1 教育DX人材階層図
  - 2-2 目指すべき教育DX人材像（階層別）
- 3 人材育成計画
  - 3-1 人材育成計画の基本方針
  - 3-2 人材育成計画（階層別）
- 4 研修マップ
  - 4-1 移行期（令和8～9年度）の研修マップ
  - 4-2 浸透期（令和10年度～）の研修マップ
  - 4-3 教育DXサポーター及びエキスパートの研修等マップ

はじめに



## 1-1 策定の背景・目的

### 策定の背景

本市では、教育DXの推進として、ICTの活用により、児童生徒の学力向上に資する教育方法はもとより、学校運営や教育行政に至るまで、より良い教育の在り方に向けた一体的変革として、教育におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでいる。これを実現し、支えるのは一人ひとりの学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員である。このため、これら全ての者を教育DXに関わる人材として育成するため、令和7年7月「大阪市教育DX人材育成方針」において、学校園の教職員及び教育委員会事務局職員を対象とした目指すべき人材像を示したところである。

しかし、教育DXの人材育成は、方針を示すだけでなく、必要なマインド・能力・知識を着実に身につけ、実践に繋げていくための育成プロセスの具体化が不可欠である。よって、大阪市教育DX人材育成方針で示された教育DX人材像や「Why—What—How」の学習ステップを、各階層の職員が、いつ、どのような研修を受講し身につけるかを体系的に整理した計画を策定する必要がある。

### 策定の目的

全ての教職員が教育DXを自分事として捉え、必要なマインド・能力・知識を着実に身につけ、実践に繋げていくための計画的かつ段階的な人材育成の仕組みを構築し、大阪市教育DX人材育成計画として策定するものである。

## 1-2 計画の位置づけ

### 大阪市教育DX人材育成方針

大阪市教育DX人材育成方針

令和7年7月 大阪市教育委員会

- 学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員の一人ひとりを教育DXに関わる人材として育成する基本的な考え方を示す。

### 大阪市教育DX人材育成計画

大阪市教育DX人材育成計画

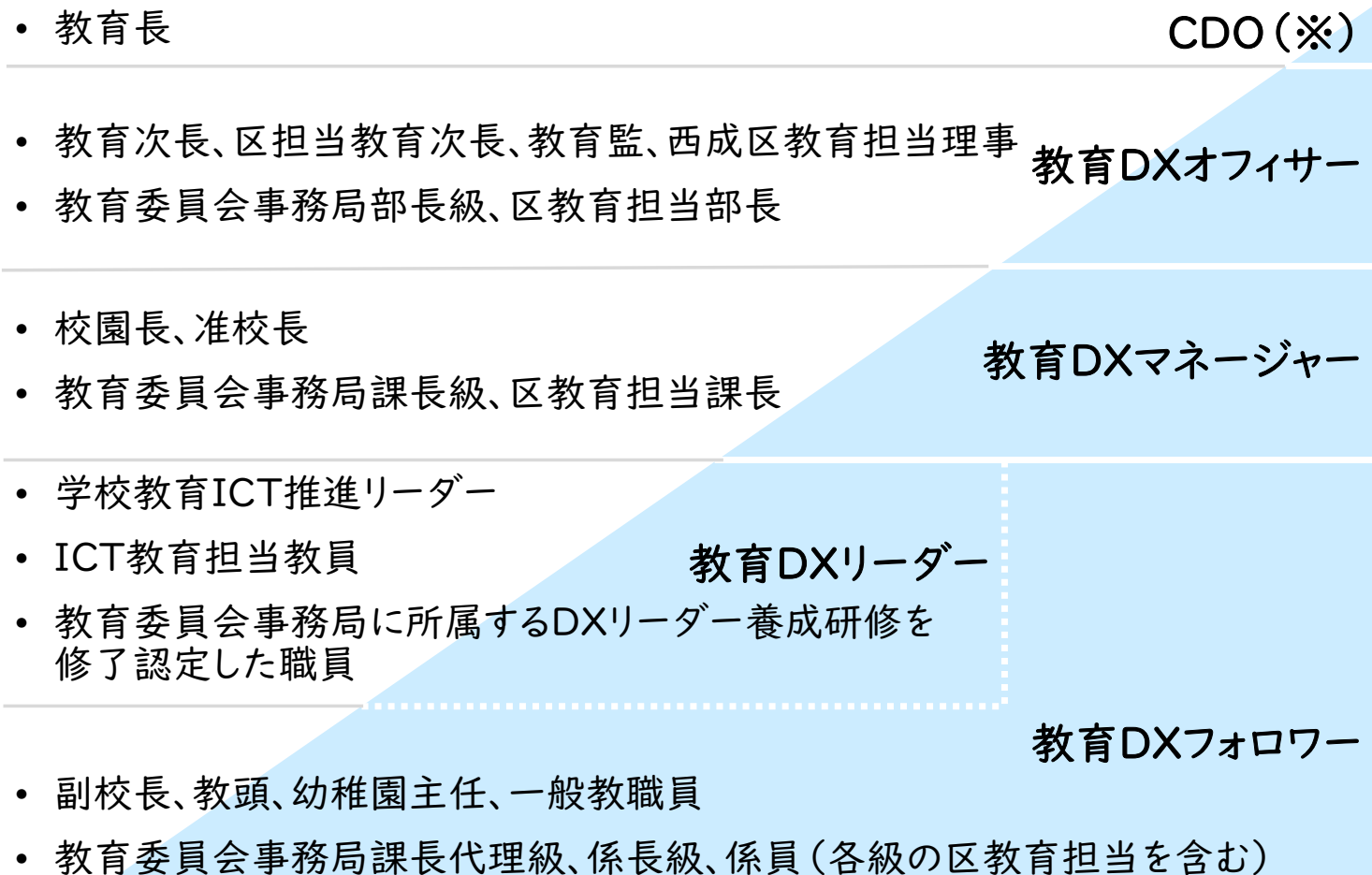
令和8年7月 大阪市教育委員会

- 大阪市教育DX人材育成方針で示された育成の方向性を具体化し、階層別研修体系や研修マップ、受講順序を整理することで、学校園の教職員や教育委員会事務局職員が段階的に必要なマインド・能力・知識を習得し、教育DX人材として着実に成長できる仕組みを示す。

目指すべき教育DX人材像



## 2-1 教育DX人材階層図



### 教育DXサポーター

- 総合教育センター教育振興担当の指導主事

### 教育DXエキスパート

- 教育デジタル推進課の職員
- システム所有課の職員

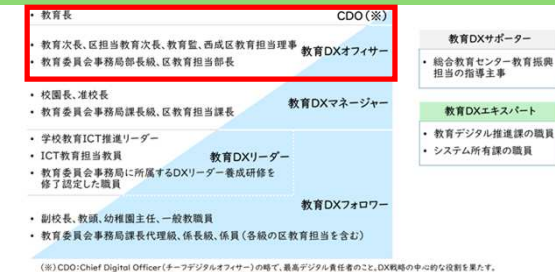
(※) CDO: Chief Digital Officer (チーフデジタルオフィサー) の略で、最高デジタル責任者のこと。DX戦略の中心的な役割を果たす。

出典: 大阪市教育DX人材育成方針

## 2-2 目指すべき教育DX人材像(階層別①)

### CDO・教育DXオフィサー

大阪市の教育振興において、総合的な情勢判断と政策決定を行う役割であり、有益なデジタル技術・考え方を知り、DXの方向性を組織に示す。広い視野で複雑な事象を概念化し、物事の本質を把握する能力を持つことが求められます。



#### 役割

- 国内外の社会情勢や文部科学省等の動向等(以下「社会情勢」という。)の変化、大阪市DX戦略、大阪市DX人材育成方針、大阪市学校教育ICTビジョン、大阪市教育振興基本計画等(以下「本市方針」という。)の状況及び本市の教育課題を踏まえ、教育DXの方向性・方針を組織に示す
- 組織改革・業務改革の道具として常にデータ・デジタル技術を戦略的に活用する可能性を検討するとともに、改革の取組みを中長期にわたりけん引していく

#### 行動姿勢 (マインド)

- 社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題を常に留意する
- 部門最適でなく全体最適の視点で議論に参画する
- DX推進にあたって、本市の教育課題が解決されたあるべき姿を想定し、デジタル技術の活用がその実現に向けた最適な手段であるかを確認する
- DX推進にあたって、必要な経営資源を確保・活用し、組織的能力を強化する

#### 能力・知識

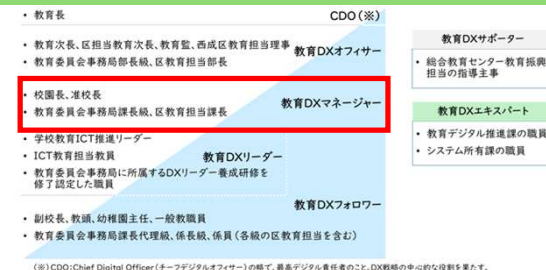
- 情勢判断力及び政策決定力
- マネジメント力

出典:大阪市教育DX人材育成方針

## 2-2 目指すべき教育DX人材像(階層別②)

### 教育DXマネージャー

事業推進責任者であり、DX知識を踏まえ課題解決の方法を論理的かつ建設的に整理し、DXリーダーやDXフォロワーと共にデジタル技術の活用や業務効率化を行いながら事業を推進することが求められます。



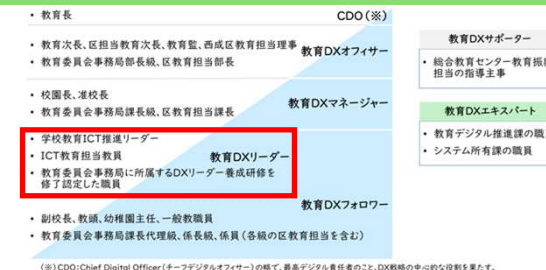
<p>役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DXの必要性を理解し、デジタル資源(デジタル知識が豊富な人材・デジタル技術・データ)の活用により、業務効率化や学びの質向上を実現する教育環境改善のためのマネジメントを行う</li> <li>担当業務の変革において、全体最適に向け、必要に応じて他部門と調整・協力し、組織・プロジェクトをけん引する</li> <li>DXリーダー及びDXフォロワーに適切な指示を行う</li> </ul>
<p>行動姿勢 (マインド)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校園及び教育委員会事務局の全体最適を見据え、校務、授業・保育、事業において、デジタル技術の活用が効果的か論理的に見極めるための情報収集を実践する</li> <li>DXを推進できるマインド・スキルを持った人材を育成することの重要性を理解し、育成に必要な取組を行う</li> <li>部下教職員がDXに取り組むための意識変革、組織風土の改革に取り組む</li> <li>デジタル資源(デジタル知識が豊富な人材・デジタル技術・データ)活用の機運を醸成し、けん引する</li> <li>システム・アプリケーション等の導入判断又は利用の際は、情報セキュリティ、コンプライアンス、モラル面に留意する</li> </ul>
<p>能力・知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情勢判断力及び政策決定力</li> <li>マネジメント力</li> <li>調整力</li> <li>情報セキュリティ等の知識</li> </ul>

出典: 大阪市教育DX人材育成方針

## 2-2 目指すべき教育DX人材像(階層別③)

### 教育DXリーダー

DX推進の中核を担う役割であり、DX知識を踏まえ企画立案・調整を進める実行主体として主体的に推進することが求められます。



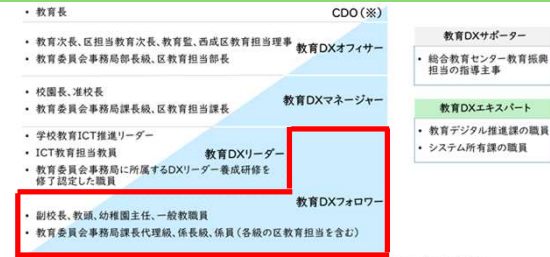
<p>役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が所属する学校園や課・担当にて「データ・デジタル技術の活用」や「誰もが簡単に使えて、満足してもらえる方法を考える発想」により業務効率化や学びの質向上を実現する教育環境改善の企画立案・調整・推進を行う</li> <li>DX推進の中核人材として内部職員・外部事業者との協議を主導する</li> <li>担当業務の推進プロセスに沿って、進捗やリスクを管理を行う</li> </ul>
<p>行動姿勢 (マインド)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>深い業務内容の知識をもとに教育DX推進の中心となり、企画立案の調整を行う</li> <li>校務、授業・保育、事業において、デジタル技術の活用が効果的か論理的に見極めるための情報収集を実践する</li> <li>デジタル技術やデータ活用の知識を持ち、DXの企画立案・調整にあたり、内外の専門人材・専門事業者と協議を行う</li> <li>課題整理、課題設定、課題解決を主体的に進め、関係教職員を巻き込む</li> <li>システム・アプリケーション等の導入又は利用の際は、情報セキュリティ、コンプライアンス、モラル面に留意する</li> </ul>
<p>能力・知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調整力</li> <li>発想力、分析力</li> <li>デジタル技術・データの知識</li> <li>デジタル技術・データの活用力</li> <li>授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)</li> <li>情報セキュリティ等の知識</li> </ul>

出典:大阪市教育DX人材育成方針

## 2-2 目指すべき教育DX人材像(階層別④)

### 教育DXフォロワー

DXリーダーと共に事業推進を担う役割であり、DX知識の習得・前向きな業務遂行が求められます。



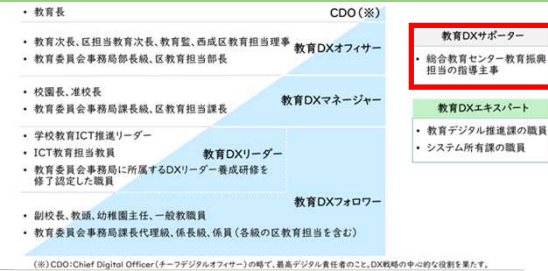
<p>役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DXの必要性を理解し、各システム・アプリ・デジタル機器により変革された業務を的確に実施する</li> <li>学びの質や業務効率の向上に向け、さらなる教育DXについて主体的に取り組む</li> </ul>
<p>行動姿勢 (マインド)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DXの背景や必要性を理解する</li> <li>DXにより変革された業務や業務フローを理解・習得し、運用する</li> <li>デジタル技術に関する基本的な知識を有し、導入されたシステム・アプリケーション等を的確に利用する</li> <li>導入されたシステム・アプリケーション等の改善点を探り、DXリーダーに相談又は自ら改善に取り組む</li> <li>校務や授業・保育の改善に向け、新たに利用できるアプリケーション等を探り、DXリーダーに相談又は自ら改善に取り組む</li> <li>システム・アプリケーション等の導入又は利用の際は、情報セキュリティ、コンプライアンス、モラル面に留意する</li> </ul>
<p>能力・知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル技術・データの知識</li> <li>デジタル技術・データの活用力</li> <li>授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)</li> <li>情報セキュリティ等の知識</li> </ul>

出典: 大阪市教育DX人材育成方針

## 2-2 目指すべき教育DX人材像(階層別⑤)

### 教育DXサポーター

学校園や教育委員会事務局が検討する学びの質向上におけたソリューション・アプリケーションの導入支援を行う役割であり、市内全体への展開を念頭に学校園同士・学校園と教育委員会のハブ役となることが求められます。



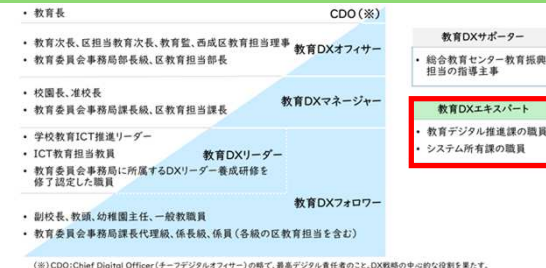
<p>役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学びの質向上におけデジタル技術やアプリケーションの検討を進める学校園や部門からの相談を受けた際に、課題分析・解決策検討・導入障壁の検討補助、事業者の紹介を行う</li> <li>• 学校園の課題・好事例を収集し、発信する</li> </ul>
<p>行動姿勢 (マインド)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習DXの推進補助者として、最新のデジタル技術の動向を把握し、学びの質向上におけた調査や研究を行う</li> <li>• 学校園の課題収集を進め、推進事業者と議論し、最適なアプリケーションを探索する</li> <li>• 学校園での好事例収集を進め、他の学校園へ連携する</li> </ul>
<p>能力・知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発想力、分析力</li> <li>• デジタル技術・データの知識</li> <li>• デジタル技術・データの活用力</li> <li>• 授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)</li> <li>• 情報セキュリティ等の知識</li> </ul>

出典: 大阪市教育DX人材育成方針

## 2-2 目指すべき教育DX人材像(階層別⑥)

### 教育DXエキスパート

教育環境整備の事業推進者であり、事業者との議論に耐えうる知識やプロジェクト管理能力を有し、大阪市の学びの質向上におい、費用対効果の高い環境整備を進めることが求められます。校務DXを主とするものの、必要に応じて学習DXの開発を進めます。



<p>役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DXの司令塔として、学校園及び教育委員会事務局全体のDX推進を企画・支援する</li> <li>ネットワークやインフラを理解し、検討内容の影響を分析・説明する</li> <li>デジタルの幅広い知識やビジネス感覚を持ち、事業者と論理的かつ建設的な議論を進めると共に、費用対効果の高い推進においけた議論・助言ができる</li> <li>費用対効果、実現可能性を考慮しつつ、課題から要件を整理し、見積依頼を進める</li> </ul>
<p>行動姿勢 (マインド)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育DXに関する最新技術の動向を把握し、理解している</li> <li>ガイドラインや規則、運用マニュアルを踏まえ、DX推進の前提条件や既存の業務手法を理解している</li> <li>大規模DXプロジェクトの推進者として、事業者との議論に耐えうる知識(製品技術・プロジェクト管理等)を有し、論理的かつ建設的な議論をけん引する</li> <li>学校園に敷設されたシステムを把握し、更なる企画、更新、廃止の必要性について考える</li> <li>事業者からの返答に対し、認識齟齬や矛盾を確認し、議論することができる</li> <li>公共調達理念に則り、事業者が絞られ過ぎない要件整理を進めることができる</li> </ul>
<p>能力・知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調整力</li> <li>情報セキュリティ等の知識</li> <li>システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力</li> </ul>

出典: 大阪市教育DX人材育成方針

## 2-2 目指すべき教育DX人材像(階層別) 参考資料1

### 教育DX人材に必要とされる能力・知識

情勢判断及び政策決定力	社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題を把握し、大阪市の教育に有効な教育DXの方向性を決定していく力
マネジメント力	教育委員会事務局及び学校園の全体最適の視点を持ち、教育DXの推進に取り組む組織の意識変革、風土改革に取り組む力
調整力	教育DXの推進にあたり、新しい取組や改善について組織の内外を問わず積極的に協議し、課題の解決方法を決定していく力
発想力、分析力	担当業務の変革について、デジタル技術の活用が効果的かを論理的に見極め、どう変革させるかを考案する力、現状及び改革後の業務を分析し、改革の必要性を考える力、客観的な事実やデータに基づき議論する力
デジタル技術・データの知識	DXで活用されるデータや技術(AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク)、その特徴及び操作に関する知識
デジタル技術・データの活用 力	関係法令やガイドラインに沿って、教育委員会事務局及び学校園の課題解決に向け、データ・デジタル技術・ツールを戦略的に活用する力
授業・保育でのデジタル技術・ データの活用力(教員のみ)	DXで活用されるデータや技術(AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク)を授業・保育に活用する力
情報セキュリティ等の知識	デジタル技術活用における情報セキュリティ、コンプライアンス、モラルに関する知識
システム開発デザイン力・ プロジェクトマネジメント力	関係法令やガイドラインに沿って、教育委員会事務局及び学校園の課題解決に向け、どのようなシステムを構築するかを企画立案する力・システムの企画立案から納品までに必要なプロセスを計画及び実施する力

出典:大阪市教育DX人材育成方針

# 2-2 目指すべき教育DX人材像(階層別) 参考資料2

## 各階層に必要とされる能力・知識

凡例:◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい



能力・知識 \ 階層	DXオフィサー (局部長級)	DXマネージャー (校園長・課長級)	DXリーダー (ICT推進リーダー、ICT教育担当教員、DXリーダー)	DXフォロワー (教職員、一般職員)	DXサポーター (総合教育センター教育振興担当指導主事)	DXエキスパート (教育デジタル推進課等職員)
情勢判断及び政策決定力	◎	◎	○	○	○	○
マネジメント力	◎	◎	○	○	○	○
調整力	▲	◎	◎	○	○	◎
発想力、分析力	▲	○	◎	○	◎	○
デジタル技術・データの知識	▲	▲	◎	◎	◎	○
デジタル技術・データの活用力	▲	▲	◎	◎	◎	○
授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)	—	▲	◎	◎	◎	◎
情報セキュリティ等の知識	▲	◎	◎	◎	◎	◎
システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力	▲	▲	▲	▲	▲	◎

出典:大阪市教育DX人材育成方針

# 人材育成計画

# 3

## 3-1 人材育成計画の基本方針

令和8～9年度を「移行期」、令和10年度以降を「浸透期」と位置づけ、Why(なぜDXが必要かを知り)・What(どんなデータ・技術が必要であるかを知り)・How(どのようにデータ・技術を活用するかを知る)の3ステップで学習を進めていくことで、スキル向上を図る。

移行期			浸透期		
令和8年度～令和9年度			令和10年度～		
Why -なぜDX?-	What -どんなデータ・技術で?-	How -どのように、データ・技術を活用?-	Why -なぜDX?-	What -どんなデータ・技術で?-	How -どのように、データ・技術を活用?-
マインド	リテラシー	スキル	マインド	リテラシー	スキル
<p><b>【移行期のWhy】</b> 教育DXに関する考え方や方向性を知る。 学校教育ICTビジョン等の大阪市の方針や、学習者用端末の活用・校務改善が既に進んでいる学校の事例を紹介。 全教職員向け研修、管理職向け研修、新規採用者研修、移行期研修など、立場や役割に応じた内容の研修等で学習を進める。</p>	<p><b>【移行期のWhat】</b> 児童生徒の発達段階に応じたデジタルリテラシーを理解し、授業や校務におけるICTの活用を拡大する。 デジタルリテラシー教育及び前提となる情報モラル教育に関する資料、Google Classroomなどの基本的なツールや授業で活かせる学習用アプリの使い方などを習得するための資料やマニュアル等を充実し、学習を進める。</p>	<p><b>【移行期のHow】</b> 授業や校務におけるICT活用をさらに拡大する。 より実践的な学習用アプリや生成AIなどの使い方を紹介。また、「自律的・探究的な学び」の実践事例、ICTを安全に利用するためのセキュリティ対策等の資料やマニュアル等を充実し、学習を進める。</p>	<p><b>【浸透期のWhy・What】</b> 毎年の新規採用者や、現職教職員の振り返りがいつでもできるよう、これまで行ってきた研修や資料を整備し、方針等が更新された場合は、研修や資料も併せて更新する。</p> <p><b>【浸透期のHow】</b> 教育DXを具体的に実践・展開する。 デジタル学習基盤を前提とした「自律的・探究的な学び」の推進と、校務DXのより実践的な推進に必要なスキルを身につける資料を充実する。 授業・校務における具体的なICTツール活用方法、学習指導要領改訂を見据えた授業モデルを浸透させる。</p>		

## 3-2 人材育成計画(階層別①)

### CDO・教育DXオフィサー

凡例:◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい

能力・知識	階層	DXオフィサー (局部長級)
情勢判断及び政策決定力		◎
マネジメント力		◎
調整力		▲
発想力、分析力		▲
デジタル技術・データの知識		▲
デジタル技術・データの活用力		▲
授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)		—
情報セキュリティ等の知識		▲
システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力		▲

#### Why

-なぜDX?-

(令和8年度～9年度)  
移行期

#### 【移行期のWhy】

次の内容について研修又は資料等で学習し、なぜ教育DXを推進しないとイケないのかを知る。  
 ・大阪市、文部科学省の方針  
 ・本市の学校の授業・校務等の現状

(令和10年度)  
浸透期

#### 【浸透期のWhy】

新規で教育DXオフィサーとなる者について、移行期と同様の学習を行う。  
 2年目以降の教育DXオフィサーは、方針等に更新がある場合、その内容が組み込まれた全教職員研修等を基に学習する。

#### What

-どんなデータ・技術で?-

#### 【移行期のWhat・How】

次の内容について研修又は資料等で学習し、本市学校園の教育DXを推進するための手段を知る。  
 ・本市の学校園で利用されたアプリ等の導入結果等  
 ・他都市等の成功事例  
 ・本市や他都市の重大なインシデント事例

#### 【浸透期のWhat・How】

移行期の内容を更新した研修や資料等により、本市学校園の教育DXを推進するための幅広い手段を知る。

#### 【状態目標】

- 国内外の社会情勢や文部科学省等の動向の変化、大阪市DX戦略、大阪市DX人材育成方針、大阪市学校教育ICTビジョン、大阪市教育振興基本計画等の状況及び本市の教育課題を踏まえ、教育DXの方向性・方針を組織に示すことができる
- 組織改革・業務改革の道具として常にデータ・デジタル技術を戦略的に活用する可能性を検討するとともに、改革の取組みを中長期にわたりけん引することができる

## 3-2 人材育成計画(階層別②)

### 教育DXマネージャー

凡例:◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい

能力・知識	階層	DXマネージャー (校園長・課長級)
情勢判断及び政策決定力		◎
マネジメント力		◎
調整力		◎
発想力、分析力		○
デジタル技術・データの知識		▲
デジタル技術・データの活用力		▲
授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)		▲
情報セキュリティ等の知識		◎
システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力		▲

#### Why

-なぜDX?-

(令和8年度～9年度)  
移行期

#### 【移行期のWhy】

次の内容について研修又は資料等で学習し、なぜ教育DXを推進するのかを知る。

- ・大阪市、文部科学省の方針
- ・各所属のDX推進責任者としての役割
- ・本市の学校の授業・校務の現状
- ・「自律的・探究的な学び」の推進の必要性

(令和10年度)  
浸透期

#### 【浸透期のWhy】

新規で教育DXマネージャーとなる者について、移行期と同様の学習を行う。

2年目以降の教育DXマネージャーは、方針等に更新がある場合、その内容が組み込まれた全教職員研修等を基に学習する。

#### What

-どんなデータ・技術で?-

#### 【移行期のWhat・How】

次の内容について研修又は資料等で学習し、教育DXを推進するための手段を知る。

- ・「自律的・探究的な学び」の取組例
- ・生成AIに関する知識等の最新の情報技術
- ・インシデント事例及びセキュリティ対策
- ・EBPMに関する知識

#### 【浸透期のWhat】

移行期の内容に加え、次の内容について研修や資料等で学習し、教育DXを推進するための幅広い手段を知る。

- ・EBPMに関する知識
- ・生成AI等最新の情報技術の活用

#### How

-どのように、データ・技術を活用?-

#### 【浸透期のHow】

移行期の内容を更新した研修や資料等により、次の内容の最新事例を学習する。

- ・「自律的・探究的な学び」の取組例
- ・インシデント事例及びセキュリティ対策

#### 【状態目標】

- 教育DXの必要性を理解し、デジタル資源(デジタル知識が豊富な人材・デジタル技術・データ)の活用により、教育の質向上や業務効率化を実現する教育環境改善のためのマネジメントを行うことができる
- 教育DXリーダー及び教育DXフォロワーに適切な指示を行うとともに、教育DXリーダーを育成することができる
- これらを通じてICTビジョンがめざす将来の姿(徹底したデジタルリテラシー教育や児童生徒の発達段階に応じた端末活用を前提とした上で、児童生徒及び教員がICTツール等を自由に使うことができ、やりたいことにチャレンジできる環境)の実現に向けて取り組むことができる

## 3-2 人材育成計画(階層別③)

### 教育DXリーダー

凡例:◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい

能力・知識	階層	DXリーダー (ICT推進リーダー、ICT教育担当教員、DXリーダー)
情勢判断及び政策決定力		○
マネジメント力		○
調整力		◎
発想力、分析力		◎
デジタル技術・データの知識		◎
デジタル技術・データの活用力		◎
授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)		◎
情報セキュリティ等の知識		◎
システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力		▲

	Why -なぜDX?-	What -どんなデータ・技術で?-	How -どのように、データ・技術を活用?-
<b>移行期</b> (令和8年度～9年度)	<b>【移行期のWhy】</b> 次の内容について研修又は資料等で学習し、なぜ教育DXを推進しないといけないのかを知る。 ・大阪市の方針 ・教育DX推進の目標、推進理由、推進手順 ・「自律的・探究的な学び」の推進の必要性	<b>【移行期のWhat】</b> 次の内容について研修又は資料等で学習し、教育DXを推進するための手段を知る。 ・デジタルリテラシー教育及び情報モラル教育に関する知識 ・生成AIに関する知識	<b>【移行期のHow】</b> 次の内容について研修又は資料等で学習し、より実践的な教育DXを推進する。 ・デジタル学習基盤を前提とした授業改善が進んでいる学校の事例と変容 ・インシデント事例及びセキュリティ対策 ・「自律的・探究的な学び」の取組を進めている学校の事例
<b>浸透期</b> (令和10年度～)	<b>【浸透期のWhy】</b> 新規で教育DXリーダーとなる者について、移行期と同様の学習を行う。 2年目以降の教育DXリーダーは、方針等に更新がある場合、その内容が組み込まれた全教職員研修等を基に学習する。	<b>【浸透期のWhat】</b> 移行期の内容に加え、次の内容について研修や資料等で学習し、教育DXを推進するための幅広い手段を知る。 ・EBPMに関する知識 ・生成AI等最新の情報技術の活用	<b>【浸透期のHow】</b> 移行期の内容を更新した研修や資料等により、先進的な取組を行っている学校園の事例等の最新事例を学習する。
<b>【状態目標】</b> ▶ 教育DXの必要性を理解し、各システム・アプリ・デジタル機器により変革された業務を的確に実施することができる ▶ 学習者用端末をはじめ、ICTツールや生成AI等のデジタル学習基盤の活用を前提とした授業や業務改善など、教育ICTビジョンで示した「目ざす教員像」の実現に向けて主体的に取組事例を創出し、周囲をけん引することができる			

## 3-2 人材育成計画(階層別④)

### 教育DXフォロワー

凡例:◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい

能力・知識	階層	DXフォロワー (教職員、一般職員)
情勢判断及び政策決定力		○
マネジメント力		○
調整力		○
発想力、分析力		○
デジタル技術・データの知識		◎
デジタル技術・データの活用力		◎
授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)		◎
情報セキュリティ等の知識		◎
システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力		▲

#### Why

-なぜDX?-

##### 【移行期のWhy】

次の内容について研修又は資料で学習し、なぜ教育DXを推進しないといけないのかを知る。

- ・大阪市の方針
- ・大阪市の授業・校務の現状
- ・教育DX推進の目標、推進理由、推進手順
- ・「自律的・探究的な学び」の推進の必要性

##### 【浸透期のWhy】

新規採用者は、移行期と同様の学習を行う。  
2年目以降の教育DXフォロワーは、方針等に更新がある場合、その内容が組み込まれた全教職員研修等を基に学習する。

#### What

-どんなデータ・技術で?-

##### 【移行期のWhat】

次の内容について研修又は資料等で学習し、教育DXを推進するための手段を知る。

- ・基本的なICTツール
- ・デジタルリテラシー教育及び情報モラル教育に関する知識
- ・本市で利用されている学習用アプリ
- ・生成AIに関する知識

##### 【浸透期のWhat】

移行期の内容に加え、教育DXを推進するための幅広い手段を研修や資料等で学習する。

#### How

-どのように、データ・技術を活用?-

##### 【移行期のHow】

次の内容について研修又は資料で学習し、より実践的な教育DXを推進する。

- ・デジタル学習基盤を前提とした授業改善が進んでいる学校の事例と変容
- ・「インシデント事例及びセキュリティ対策
- ・「自律的・探究的な学び」の推進に必要なスキル

##### 【浸透期のHow】

移行期の内容を更新した研修や資料等により、最新事例を学習する。

#### 【状態目標】

- 教育DXの必要性を理解し、各システム・アプリ・デジタル機器により変革された業務を的確に実施することができる
- 学習者用端末をはじめ、ICTツールや生成AI等のデジタル学習基盤の活用を前提とした授業や業務改善など、教育ICTビジョンで示した「目ざす教員像」の実現に向けて主体的に取り組むことができる

## 3-2 人材育成計画(階層別⑤)

### 教育DXサポーター

凡例:◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい

能力・知識	階層	DXサポーター (総合教育センター教育 振興担当指導主事)
情勢判断及び政策決定力		○
マネジメント力		○
調整力		○
発想力、分析力		◎
デジタル技術・データの知識		◎
デジタル技術・データの活用力		◎
授業・保育でのデジタル技術・ データの活用力(教員のみ)		◎
情報セキュリティ等の知識		◎
システム開発デザイン力・ プロジェクトマネジメント力		▲

移行期・浸透期  
(令和8年度)

#### Why -なぜDX?-

##### 【Why】

次の内容について研修又は資料で学習し、なぜ教育DXを推進しないといけないのかを知る。  
 ・大阪市、文部科学省の方針  
 ・本市の学校の授業・校務の現状

#### What -どんなデータ・技術で?-

##### 【What・How】

次の内容について、①～⑤の方法で教育DXを推進するための手段を知る。

- ・デジタルリテラシー教育及び情報モラル教育に関する知識
- ・デジタル学習基盤の活用を前提とした授業実践例
- ・生成AIを活用した授業実践例
- ・本市・他都市の「自律的・探究的な学び」の授業実践例
- ・インシデント事例及びセキュリティ対策
- ・その他教育DXを推進に必要な知識

- ① 担当業務における実務(事例収集・発信、学校園の訪問、生成AIパイロット校の伴走支援等)
- ② 資料・既存研修による学習
- ③ 他都市における先進的事例の視察
- ④ 本市デジタル統括室主催の研修受講
- ⑤ J-LIS主催の研修受講

##### 【状態目標】

- デジタル学習基盤を前提とした学びの推進や業務改善において、より多くの学校園の事例について学び、関係各課と連携してマニュアルや研修資料を充実させることができる
- 学校園のデジタル技術やアプリケーション導入について、課題分析・解決策検討・導入検討補助を行うことができる

## 3-2 人材育成計画(階層別⑥)

### 教育DXエキスパート

凡例:◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい

能力・知識	階層	DXエキスパート (教育デジタル推進課 等職員)
情勢判断及び政策決定力		○
マネジメント力		○
調整力		◎
発想力、分析力		○
デジタル技術・データの知識		○
デジタル技術・データの活用力		○
授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)		◎
情報セキュリティ等の知識		◎
システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力		◎

移行期・浸透期  
(令和8年度)

#### Why -なぜDX?-

##### 【Why】

次の内容について研修又は資料で学習し、なぜ教育DXを推進しないといけないのかを知る。

- ・大阪市、文部科学省の方針
- ・本市の学校の授業・校務の現状
- ・教育DX推進の目標、推進理由、推進手順

#### What -どんなデータ・技術で?-

##### 【What・How】

次の内容について、①～⑦の方法で教育DXを推進するための手段を知る。

- ・本市の事務手続き
  - ・IT用語
  - ・学校園の教職員の職務の流れ
  - ・一般的なネットワーク・システム・機器・ソフト・ツールに関する知識
  - ・学校園に実装されたネットワーク・システム・機器・ソフト・ツールに関する知識
  - ・要件定義等の企画方法
  - ・RFP・RFI等の作成方法
  - ・企業活動や経営戦略、法務に関する知識
  - ・セキュリティ対策に関する知識
  - ・その他教育DXの推進に必要な知識
- ① 担当業務における実務
  - ② 学校園の視察
  - ③ 他都市における先進的事例の視察
  - ④ 資料による学習
  - ⑤ 本市デジタル統括室主催の研修受講
  - ⑥ J-LIS主催の研修受講
  - ⑦ IT企業等外部主催の研修受講

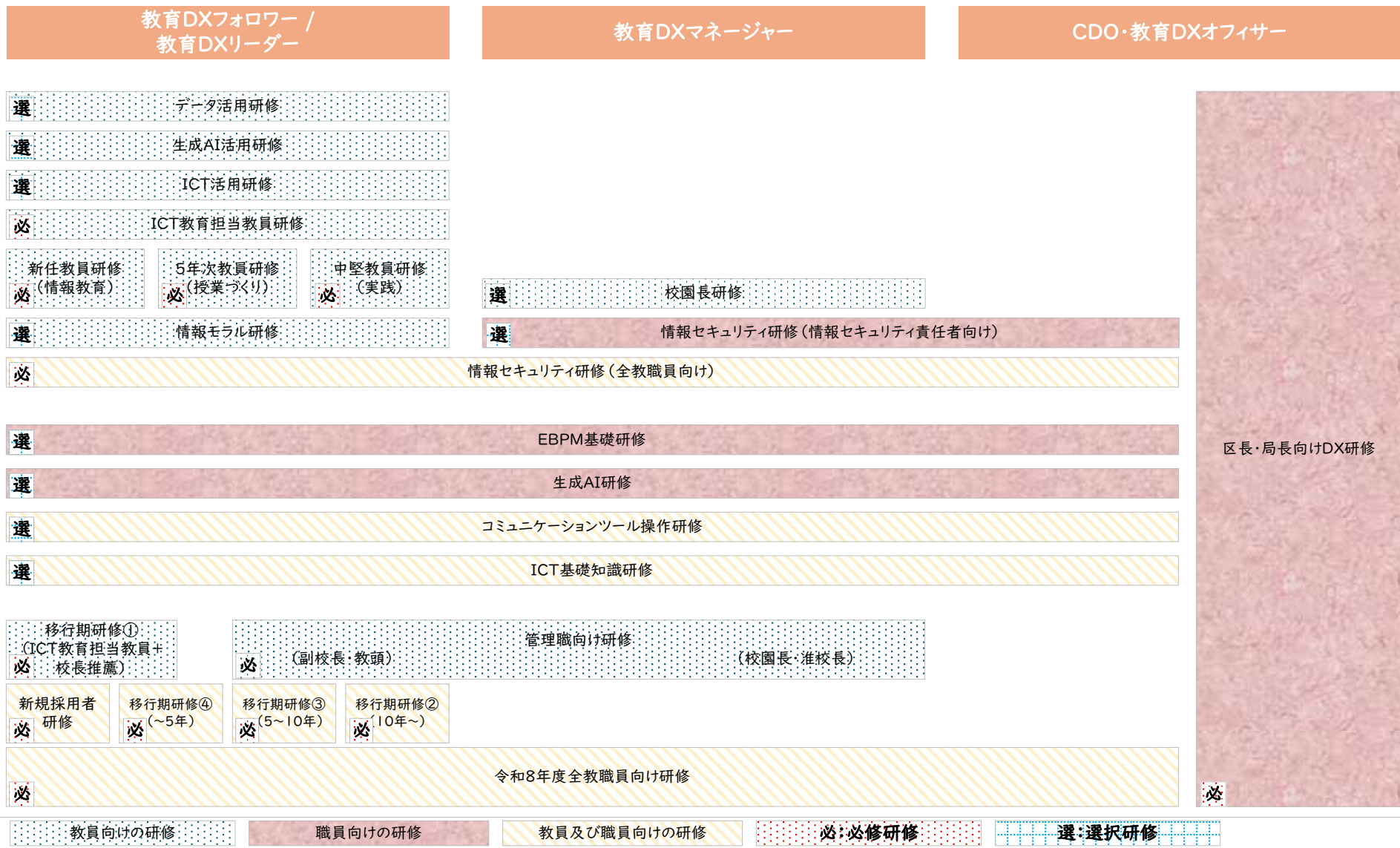
##### 【状態目標】

- ネットワークやインフラ等の自己の担当分野を深く理解し、検討内容の影響を説明できる
- デジタルの幅広い知識やビジネス感覚を持ち、事業者と論理的かつ建設的な議論を進めると共に、費用対効果の高い推進に向けた議論・助言ができる
- 費用対効果、実現可能性を考慮しつつ、課題から要件を整理し、見積依頼を進めることができる

研修マップ

4

# 4-1 移行期（令和8~9年度）の研修マップ



区長・局長向けDX研修

# 4-2 浸透期（令和10年度～）の研修マップ

	教育DXフォロワー / 教育DXリーダー	教育DXマネージャー	CDO・教育DXオフィサー		
How データ・技術の活用方法	令和10年度以降に、Howに関する研修を整備予定				
	選	データ活用研修(仮)			
	選	生成AI活用研修(仮)			
	選	ICT活用研修(仮)			
	必	ICT教育担当教員研修(仮)			
	必	新任教員研修	5年次教員研修	中堅教員研修	
	選	情報モラル研修(仮)	選	情報セキュリティ研修(情報セキュリティ責任者向け)	
		必(副校長・教頭)	管理職向け研修	(校園長・准校長)	
	必	情報セキュリティ研修(全教職員向け)			
	What DXで活用されるデータ・技術	令和10年度以降に、Whatに関する研修を整備予定			
選		EBPM基礎研修			
選		生成AI研修			
選		コミュニケーションツール操作研修			
選		ICT基礎知識研修			
Why DXの背景		必	新規採用者研修		
	選	令和8年度全教職員向け研修(未受講者又は再受講用)			
	必	区長・局長向けDX研修(仮)			
凡例	教員向けの研修	職員向けの研修	教員及び職員向けの研修	必:必修研修	選:選択研修

# 4-3 教育DXサポーター及びエキスパートの研修等マップ

	教育DXサポーター	教育DXエキスパート			
How データ・技術の活用方法	他都市の先進的事例の視察				
	教科等担当指導主事連絡・研究協議会	専門知識に関する書籍及び資料			
	学校園への訪問	選 J-LIS主催の研修			
		選 プロジェクト計画の研修(外部主催)			
What DXで活用されるデータ・技術		選 要件定義等の企画方法の研修(外部主催)			
		選 ネットワーク・システム・機器・ソフト・ツールに関する知識の研修(外部主催)			
	必 情報セキュリティ研修(全教職員向け)				
	選 その他DXで活用されるデータ技術に関する研修(今後予定)				
	選 EBPM基礎研修				
	選 生成AI研修				
	選 コミュニケーションツール操作研修				
	選 ICT基礎知識研修				
Why DXの背景		学校園の視察			
	必 令和8年度全教職員向け研修				
凡例	職員向けの研修	教員及び職員向けの研修	研修以外	必:必修研修	選:選択研修